

📷 日本の野鳥カレンダー 2026 写真募集! 📷

「日本の野鳥カレンダー 2026」に掲載する野鳥写真の募集を、2025 年 2 月 1 日（土）から開始します。これまでに「日本の野鳥カレンダー」に応募されたことのある方から写真が届くのも楽しみです。応募したことがない方からの応募もお待ちしています！ そんな方たちのために、「日本の野鳥カレンダー」はどのような点に着目して写真を選考しているのかを紹介します。

●採用しない野鳥

募集要領の応募条件にも記載されていますが、ペット・家禽の写真は受け付けていません。それに加えてドバトやコジュケイといった外来種も採用しません。また卵・ヒナ・営巢中の写真は撮影によって繁殖を阻害する懸念があるので、こちらも採用しません。

募集要領には記載していませんが、毎年日本に数例しか記録がない珍しい鳥の写真が届くことがあります。その鳥が確認されたことが知られるとカメラマンが集まるようないわゆる「珍鳥」は採用しませんのでご注意ください。

●採用する野鳥

ここ数年はシマエナガの作品が多く届きますが、人気や色鮮やかさだけが採用条件ではありません。2025 年のカレンダーにはカワラヒワやコサギを採用したように、日本各地でよく見られる鳥でも、季節を代表する植物や風景との組み合わせであったり、躍動感がある瞬間を捉えたりしていれば、注目の的になります。普段見慣れた野鳥こそ、撮影する機会も多く、良い写真が撮影できる可能性も高くなるはずです。ぜひ撮影にチャレンジしてみてください。

●求む！ 7、8、9 月の写真

毎年の悩みですが…7、8、9 月に撮影された写真は本当に少ない！ この時期は換羽や暑さで山野の野鳥の活動が鈍くなるので、撮影が難しいですね。しかし 2025 年はツバメ（7 月）、コサギ（8 月）、ノビタキ（9 月）といった街中や平地でも見られる鳥を採用しました。応募数が少ないということは採用される可能性が高くなるということなので、応募を検討されている方は他の月とあわせて 7、8、9 月に撮影した写真も送ってください！

●構図について

構図としてはフォーカスされた野鳥と風景とのバランスを重視しています。風景とのバランスといっても主役は野鳥。カレンダーを壁に掛けた時、遠目から見てもその野鳥がはっきりと種同定できる作品を採用します。ただし図鑑の写真のように画面いっぱいに鳥だけが写るものは採用を見送る傾向にあります。めくった瞬間から 1 ヶ月間、毎日飽きずに野鳥も風景も楽しめる構図をお待ちしています！

●写真加工について

届いた写真には過度に加工された写真が非常に多くみられます。彩度を上げすぎて異常に鮮やかな体色をした野鳥、シャープをかけすぎて鳥の輪郭と背景の境界が明瞭になった写真が非常に多いです。過度な加工をせず、なるべくありのままの写真をお送りください。

日本鳥類保護連盟では野鳥の写真の募集とあわせて、撮影のマナーについても啓発しています。撮影マナーや応募の注意点、応募用紙のダウンロードは連盟ホームページをご確認ください。



2025 年 7 月に採用されたコサギ。水の「動」の動きとコサギの「静」の動きのギャップが印象的です。（撮影：吉本直志さん）



2025 年 8 月に採用されたツバメとハスの花。季節の花と野鳥と一緒に写っている写真は注目の的になります。（撮影：澤野史枝さん）

【お送り先・お問合せ先】

公益財団法人 日本鳥類保護連盟 カレンダー写真応募係

〒166-0012 東京都杉並区和田 3-54-5 第10 田中ビル 5F

TEL: 03-5378-5691 FAX: 03-5378-5693

担当：吉田 yoshida@jspb.org / 岡安 okayasu@jspb.org URL: <https://www.jspb.org/calender>

